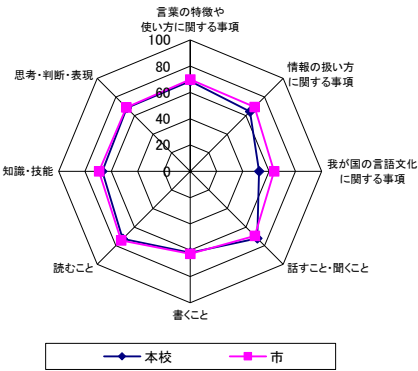


宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.6	69.9	72.3
	情報の扱い方にに関する事項	64.3	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	52.4	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	72.2	69.5	71.5
	書くこと	61.9	62.8	67.1
観点別	読むこと	72.6	74.4	73.7
	知識・技能	66.8	69.4	71.9
	思考・判断・表現	68.3	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

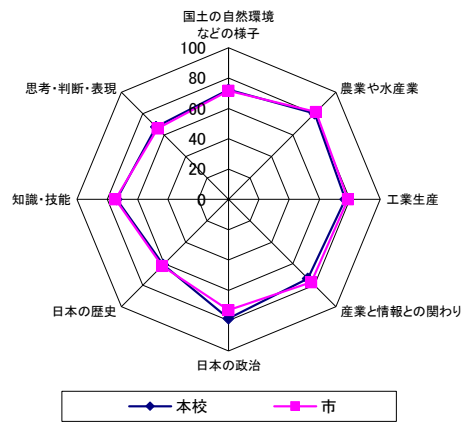
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市よりやや低い。 ○「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、文章で書く漢字テストを繰り返し行った成果である。 ●漢字を書く問題では、市の正答率より低い。特に、「第5学年に配当されている漢字を正しく書いているか」を問う問題では、市の正答率より低く課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を学習する際、単語として学ぶだけでなく、文章の中でどのように使われるのかについて指導する。また、国語以外の授業でも、既習の漢字を意識して使うようにさせる。 ・読書や音読の充実を図り、文章の中で使われる漢字に慣れさせる。 ・1人1台端末を活用し、繰り返し漢字の学習をさせる。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市より低い。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理しているか」を問う問題や、「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・1人1台端末を活用し、資料を読み取ったり、複数の資料を関連付けたりする学習を繰り返し行うことで、情報を扱う資料の読み取りの力を向上させる。 ・調べ学習において、資料を活用する際には、どのように資料を読み取るか、または関連付けるかなど、資料を読み取るポイントを説明し、簡潔な文章で書くことができるよう指導する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市より低い。 ●「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・新出漢字を繰り返し練習したり、語句の意味調べをしたりすることにより、基礎基本の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市より高い。 ○「話の内容を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ○「意図に応じて、質問を工夫しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・話し合い活動では、話し合いの意図を明確にし、要点を捉えられるように確認していく。 ・一人一人が目的意識をもって聞いたり、話したりできるような、意識付けや雰囲気作りを行う。 ・国語以外の学習でも、ペア学習やグループ学習などで伝え合う授業を意図的に行う。
書くこと	平均正答率は、市よりやや低い。 ○「指定された長さで文章を書いているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、作文指導を継続してきた成果である。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ●「目的や意図に応じて、書き表し方を工夫しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。 ●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・他教科との関連を図りながら、資料が何を表しているのかポイントを押さえて、読み取らせる指導をしていきたい。 ・資料から読み取った内容を、目的に応じて文章で表現できるよう、指導をしていきたい。
読むこと	平均正答率は、市より低い。 ○「物語の登場人物の心情について、描写を基に捉えているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、国語の学習で、根拠となる文章を明らかにして物語文の読み取りを継続して行ってきた成果である。 ○「物語の文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、様々な教科で考えや思いを書いた用紙を掲示し、自分の考えを確固たるものにしたたり、広げたりしてきた成果である。 ●「説明文の文章全体の構成を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。 ●「説明文の情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・説明文では、段落ごとの要点を読み取り、その後文章全体を読み取る学習に丁寧に取り組ませる。 ・説明文の指示語に注目することや接続語に着目して読み取りをすることなどを授業でしっかりおさえて、文章を読み取るよう指導したい。 ・読書活動を推進し、様々なジャンルの本に触れることができるようにしたい。 ・読み聞かせを行い、物語から想像力を膨らませる機会を取り入れたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.4	71.6	67.5
	農業や水産業	80.2	81.5	82.1
	工業生産	77.0	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	73.8	77.2	68.2
	日本の政治	78.6	73.1	77.9
	日本の歴史	61.0	62.0	65.8
観点別	知識・技能	73.8	74.6	74.5
	思考・判断・表現	67.6	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

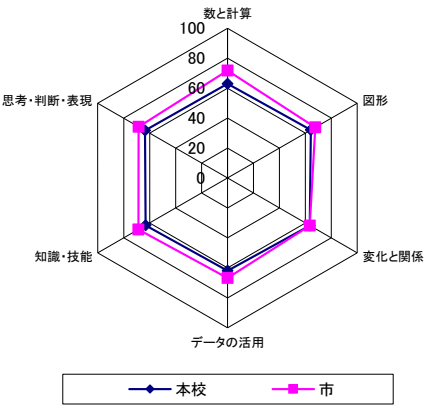
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市よりやや高い。 ○「韓国の国旗と位置について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ○「日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、授業で地図を繰り返し活用してきた成果である。 ●「日本の周辺の海洋名について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の周辺の海洋について、地図上で場所を確認しながら指導することで、基礎基本の定着を図る。 ・国土の自然環境について1人1台端末を活用し、児童が自ら進んで学ぶことができるよう工夫していきたい。
農業や水産業	平均正答率は、市よりやや低い。 ○「都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、適切な地図を判断しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、都道府県の位置を問う問題を継続して行ってきた成果である。 ●「地産地消の取り組みを理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・農業従事者が多い地域であるので、身近なことを話題にしたり、地域の方を招いて話を聞いたりする活動を行い、地産地消の取り組みについて興味関心を高めたい。 ・1人1台端末を活用し、多くの資料を読み取る活動や白地図にまとめる活動を意図的に取り入れることで、一人一人が意欲的に学習に取り組めるような指導の工夫をしていきたい。
工業生産	平均正答率は、市より低い。 ○「日本の輸出品の資料を読み取っているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、授業で資料の読み取りの仕方を丁寧に扱い、ポイントを明確にして多くの資料の読み取りを行ってきた成果である。 ●「工場の作業工程について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・授業において、グラフの読み取りや輸入相手国についてまとめる活動を行った成果だと考えられる。引き続き、基礎基本の定着のために練習問題に取り組ませる。 ・自動車工場の取り組みについて、1人1台端末を活用し、児童が自ら進んで学べるように工夫し、基礎基本の定着を図る。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市より低い。 ○「メディアの特徴を理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、社会科以外の教科でもメディアについて話題にしたり、説明したりしてきた成果である。 ●「資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・実生活と関連させ、児童に考えさせる活動を取り入れ、実感に伴った理解につながるよう指導する。 ・外部講師招いた授業を積極的に活用することで、児童が広い視野を持って情報の活用について考えられるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市より高い。 ○日本の政治に関する問いでは、全ての問いが市の正答率より高い。これは、復習プリントを活用し、基礎基本の定着を図ってきた成果である。	・外部講師を招いた授業を積極的に計画することで、政治や経済に興味を持たせ成果だと考えられる。引き続き、基礎基本の定着のために意欲的に学習に取り組める工夫をしていきたい。
日本の歴史	平均正答率は、市よりやや低い。 ○15世紀から17世紀のできごとについて適切な見出しを判断しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ○「江戸幕府による大名支配について適切な見出しを判断しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 これらのことは、ミニテストを継続して行ってきた成果である。 ●鎌倉時代や室町時代に関する問いでは、全ての問いが、市の正答率より低く、課題が見られる。	・時代ごとに主要な歴史的人物やできごとをおさえ、練習問題に取り組ませることで、基礎基本の定着を図る。 ・1人1台端末を活用し、司書と連携を図りながら図書室や学区内の南図書館を活用することで、多くの情報から課題にあった資料を選択し、深く考えられるような指導の工夫していきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	63.0	71.8	76.2
	図形	64.3	67.7	67.8
	変化と関係	63.5	63.4	62.7
	データの活用	61.9	66.7	61.5
観点別	知識・技能	63.1	68.6	70.7
	思考・判断・表現	63.6	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

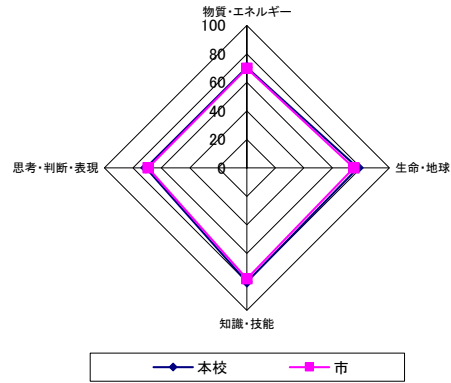
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市より低い。 ●小数の計算、分数の計算、文字式の問では、市の正答率より低く、課題が見られた。 ●「文字を使った式があらわす場面を選んでいるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られた。 ●「2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や授業、宿題等で、基礎基本の定着を図るためにプリント学習やAIDリルを活用した学習に取り組ませたい。 ・児童が文字を使うことの有用性を実感できるような活動を授業で意図的に設定するなど、工夫していきたい。
図形	平均正答率は、市より低い。 ○「半円と四分の一の円を組み合わせてできる図形の面積の求め方を説明できるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、アンブラグドの授業で升目を使って円の求め方を考えたことで、理解を深めた成果であると考えられる。 ●「高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める式を理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・朝の学習や授業、宿題等で、基礎基本の定着を図るためにプリント学習やAIDリルを活用した学習に取り組ませたい。 ・図形の特徴を身近に感じながら学べるよう、具体物を操作する活動の充実を図りたい。 ・教室背面黒板の学習コーナーを活用し、既習の図形やその特徴を書いたものを掲示し、視覚的に学ぶことができるよう工夫する。
変化と関係	平均正答率は、市とほぼ同じである。 ○「速さの単位の関係を理解し、時速を秒速や分速に直すことができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、秒速、分速、時速の関係を問う問題に繰り返し取り組んできた成果である。 ○「図から面積と数の割合を求め、どのウサギ小屋が最も混んでいるか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ●「基準量と比較量から、割合を求めることができるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・面積と人数の割合から混み具合を考えたり、速さの単位の関係を用いて移動距離や時間を求めたりするなど、繰り返し問題を解くことで、授業で学んだ知識を「活用できる知識」へと発展させていきたい。
データの活用	平均正答率は、市より低い。 ○「欲しいデータを求めるために必要な正しい情報を選んでいくか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、授業で、データを読み取ったり、自分の考えを表現するためにデータを活用したりする活動行ってきた成果であると考えられる。 ●「折れ線グラフを読み取っているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・1人1台端末を活用し、データをグラフに表す活動や、グラフを読み取る活動を通して、グラフへの関心を高めていきたい。 ・各学年で取り扱うデータの整理の仕方について、算数だけでなく、社会科や他教科とも関連させ、実生活と結び付けた学習を行い、データ活用能力を高めていきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.6	69.9	67.8
	生命・地球	77.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	80.1	77.8	78.4
	思考・判断・表現	70.9	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市より高い。 ○「溶け残った食塩をすべてとかす方法」を問う問題では、市の正答率より高い。 ○「電磁石の性質を利用した道具で、空きかんをつり上げたり、はなしたりできるように修正する方法」を問う問題では、市の正答率より高い。 これらのことは、実験を行うことで、その過程や結果をふまえて、理解が深まった成果である。 ●「炭酸水から出る泡は何か」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。 ●「アルミニウムと塩酸が反応してできたものとアルミニウムを区別する方法」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・各種実験の計画・方法については、理解度が高い。「水よう液の性質」の学習では、引き続き、実験を通して理解が深まるよう指導したい。 ・どの単元でも、映像資料を活用し、理解が深まるよう、授業を展開を工夫したい。
生命・地球	平均正答率は、市より高い。 ○「実験の結果から呼吸のはたらきを記述する」問いでは、市の正答率より高い。 ○「くきを切ったときの断面の水の通り道」を問う問題では、市の正答率より高い。 これらのことは、実験や映像資料を活用して、理解が深まったと考えられる。 ○植物のつくりとはたらき、生物とかんきょう、月と太陽に関する問いでは、すべての問題において市の正答率を上回っている。これらは、復習プリントを活用したり、1人1台端末を活用して、単元のまとめを作成したりした成果である。 ●「実験の結果から部屋の換気の頻度を分析する」問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・基礎基本が定着している「植物のつくりとはたらき」「生物とかんきょう」「月と太陽」については、さらに復習プリントを活用し、力を伸ばしていけるようにする。 ・「動物のからだのつくりとはたらき」の学習では、実際にグループで実験をするとともに、実生活と関連付けて考えられるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進めている。	・1人1台端末を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。	・「インターネットやパソコンを活用して、学習に関する情報を得ているか」という問いでは、市の肯定回答率を上回っている。
・家庭学習の充実	・全校児童統一のファイルに、自主学習記録カードと音読カードを貼り、毎日の学習の記録をつける。家庭のサインと担任のサインを毎日記入し、児童の学習を励ます。	・「学習に自分から進んで取り組んでいるか」や「計画を立てて学習しているか」の問いでは、市の肯定回答率を上回っている。また、「1日の学習時間について」は、市の平均を大きく上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

「とちぎっ子学習状況調査」「全国学力・学習状況調査」「学習内容定着度調査」から、国語では、資料から分かることを書いたりまとめたりすることや、目的に応じて文章を簡単に書いたりする問いで課題が見られた。国語の学習で目的やテーマに合った文章を書く指導をするとともに、国語以外の教科でも、特に社会科や総合、理科などの授業で、資料や実験結果から分かることを自分の言葉で文章にまとめ、友達と伝え合うような授業を展開していきたい。また、どの教科においても、考えや思いを自分の言葉で分かりやすくノートにまとめたり、それを伝えたりする場面を意図的に設定していきたい。算数では、図形に関する問いで、平均より低い問いがあり課題が見られた。図形は、特徴を身近に感じながら学べるように具体物を操作する活動の充実を図るとともに、ICT機器を使用して図形を視覚的に捉えられるような授業を展開していきたい。理科では、実験結果や条件から判断する問いや、その内容を記述できるかを問う問題で、平均より低く、課題が見られた。実験を行い、その過程や結果をふまえて理解を深める授業展開を心掛けるとともに、体験することが難しい分野や、条件や時期により観察が困難がある単元では、映像資料を活用して理解を深めさせたい。また、実験結果や単元のまとめなどを教室背面の学習コーナーに掲示して、視覚的に学習内容の定着を図る工夫もしていきたい。